

令和元年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。

科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

令和元年度科学研究費は、継続課題として科学研究費補助金によるものが2件、学術研究助成基金助成金によるものが2件、新規に採択された課題は学術研究助成基金助成金による課題3件であった。

なお、学術研究助成基金助成金が研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記していない。

(1) 継続研究課題

<補助金>

基盤研究(B)

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」

平成29年度～令和2年度 川本耕三 13,700千円(研究期間合計額)

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和2年度 雨森久晃 11,600千円(研究期間合計額)

<基金>

基盤研究(C)一般

「疑似出土木材の調製」

平成29年度～令和元年度 山口繁生 3,400千円(研究期間合計額)

若手研究(B)

「施釉陶器色調計測の基礎的研究」

平成28年度～令和元年度 田中由理 1,400千円(研究期間合計額)

(2) 新規研究課題

<基金>

基盤研究(C)一般

「石造物からみた中世寺院の求心性と情報発信力に関する基礎的研究」

令和元年度～3年度 佐藤 亜聖 3,000千円(研究期間合計額)

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～4年度 服部 光真 1,900千円(研究期間合計額)

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～3年度 坂本 俊 2,900千円(研究期間合計額)

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査研究グループ

人文科学分野

奈良県桜井市 総本山長谷寺	文化財等保存調査事業
大阪府松原市	市内文化財総合調査業務委託
奈良市 華嚴宗元興寺	所蔵歴史資料の総合調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る八栗寺文化財詳細調査
愛媛県	平成31年度札所の文化財詳細調査業務
高知県	札所寺院(金剛頂寺)文化財調査委託業務
奈良市 真言律宗元興寺	創建千三百年記念出版に係る書籍制作業務
北海道北広島市	文献資料翻刻・現代語訳作成業務委託
大阪府高槻市	令和元年度高槻市立しろあと歴史館古文書史料 目録作成業務
和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会	災害記念碑拓本採取業務

寺院を対象とする継続的な総合調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、染織品、工芸品などについての調査・整理を実施した。松原市の融通念佛宗来迎寺の総合調査では、彫刻、絵画、工芸品、染織品、聖教、絵図・木札、石造物の3ヶ年にわたる調査成果をまとめ、市民向けの報告会を実施するとともに、報告書を編集して松原市教育委員会から刊行した。

華嚴宗元興寺の総合調査は、古文書古記録、聖教、位牌、版木、絵画について実施し、報告書を刊行した。当事業については公益財団法人大和文化財保存会から助成を受けた。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では八栗寺の調査を実施して完了した。愛媛県では大寶寺、岩屋寺、浄瑠璃寺、八坂寺、浄土寺の調査を実施し、岩屋寺と浄土寺は調査を完了した。高知県では、金剛頂寺の調査を行った。それぞれ報告書刊行のための文化財目録・報告文を提出した。なお、平成29年度に調査を行った郷照寺の報告書が香川県から刊行されている。

元興寺創建千三百年を記念して刊行する書籍は、講演集編・図録編の2冊について編集・制作に着手した。令和2年度に吉川弘文館から刊行する予定である。

その他、古文書目録作成・翻刻、拓本採取など、古文書や石造物の資料化のための基礎的な調査、作業を行った。

考古学分野

三和建設（株）	平城京右京一条二坊十一坪発掘調査業務
三和建設（株）	平城京右京一条二坊十一坪発掘調査整理報告業務
吉川泰久氏ほか （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団	平城京左京三条六坊十一坪・奈良町遺跡発掘調査業務 井辺遺跡第73次発掘調査に係る発掘支援業務委託
（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団	和歌山城跡39次発掘調査に係る発掘支援業務委託
高野町教育委員会	^{しせきこんごうぶじ} 史迹金剛峯寺旧境内（奥院地区）大名墓総合調査業務に係る委託業務
寶光寺（兵庫県南あわじ市）	寶光寺石造物調査業務
和歌山県立博物館	災害記念碑拓本採取業務
米山寺（広島県三原市）	米山寺小早川家墓地石塔基礎調査業務

発掘調査は支援業務を含め4件行った。主体的な調査は主に奈良市内において平城京跡を対象とした調査を2件行っている。いずれも令和2年度に発掘調査報告書を刊行する予定である。なお、平城京右京一条二坊十一坪発掘調査業務は調査と報告を別契約で行っている。

これら主体的調査に加え、全埋協加盟団体間の調査協力として、公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団の発掘調査（和歌山城跡、井辺遺跡）の調査支援を行った。今後こうした支援業務が増加することも考えられる。

石造物関係の調査は4件受託している。高野山奥之院基礎資料整理業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために昨年度インデックスとしての悉皆調査報告書を刊行したが、今後銘文編を含めた悉皆調査報告書を刊行すべく、詳細調査を継続している。寶光寺は寺内石造物の銘文判読、和歌山県立博物館は津波災害記念碑の調査である。

米山寺小早川墓地石塔基礎調査業務は、平成26年の洪水災害に関する復旧工事に係る調査で、重要文化財米山寺宝篋印塔の実測等を行った。次年度以降、継続して小早川家墓地石塔調査を行う予定となっている。

記録資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は、14年目の年度を完了した。歴博内では館内業務として位置づけられ資料係からの調査委託事業となっている。令和元年度は平成30年度に引き続き現地調査員1名を駐在させ、当所研究員の指導のもと資料係員との協力体制のもと、「妖怪・怪談コレクション」「明治期生活史及び洋学関係資料」「青森県南地方の仕事着コレクション」等の3種類5コレクションの状態調査を実施した。

舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市） 「白樺日誌」詳細状態調査

平成28年度に状態調査を実施した舞鶴引揚記念館収蔵ユネスコ世界記憶遺産登録資料570点は、調査結果に基づく提案に沿い順次に保存処理を実施している。令和元年度は、登録資料の中でも最も代表的な展示資料である「白樺日誌」の詳細状態調査を実施した。詳細調査結果に基づき、長年の原本展示による経年劣化の現状を把握し、将来的な保存処理案を提示した。

保存科学研究グループ

（公財）大阪府文化財センター

大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府太子町）所蔵大修羅の保存状態調査

平成9年度以来近つ飛鳥博物館の展示室内で大修羅の寸法計測や状態調査を継続している。部分的な補填材の経年劣化等は見られるものの概ね良好な状態である。

舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市） 「白樺日誌」展示環境、及び状態調査

舞鶴引揚記念館では、収録資料の中でも代表的な資料である「白樺日誌」の展示環境調査を行った。また、資料の赤外線写真撮影、及び微小部観察を行い、判読が難しくなっている筆記の判読や、筆記具・インクについての推察を行った。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における主要石造物の詳細調査を実施し、『研究報告』に逐次掲載する形で公表を行ってきた。

令和元年度は、奈良市般若寺町の般若寺境内に所在する笠塔婆2基に刻まれた銘文について、最新の調査手法（PhotoScan）による3D計測、レーザー測量、光拓本）を用いて、過去の判読と比較検討する調査を実施した。

PhotoScanによる3D計測、レーザー測量、光拓本にはそれぞれ長所短所があり、どの手法が最善かという結論には至らなかったが、それぞれの長所を生かした判読結果では、銘文は従来から読まれていたものと大きな矛盾は確認できなかった。これにより、過去の銘文判読の主流であった拓本採取という手法はまだ有効であることが明らかになった。

しかし、今回調査に用いた手法はすべて資料（石塔）に対して非接触で行うものであり、近年の環境変化で屋外にある資料は特に劣化が進行していることもあり、資料に対して優しい手法として今後はより盛んに用いられるものと考えられる。

なお、この成果は令和2年度に刊行する『研究報告2020』に掲載する予定となっている。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝荒神谷遺跡出土青銅製品に係る分析
北海道枝幸町	目梨泊遺跡出土金銅装直刀の分析
奈良国立博物館	五條猫塚古墳出土金銅龍文帯金具の分析
（株）宇佐美修徳堂	「雪のサンタマリア」の分析
鳴門市ドイツ館	俘虜印刷物の顔料分析

出土資料では、荒神谷遺跡出土銅剣の本格処理に際し、応急処理時に含浸されたアクリル樹脂の劣化について、熱分解ガスクロマトグラフ質量分析法、核磁気共鳴法等による詳細な調査を行った。また目梨泊遺跡出土直刀について、鞆木の樹種同定、漆膜の年代測定、蛍光X線分析による材質分析を行い、五條猫塚古墳出土帯金具について、コンピュータ断層撮影、走査型電子顕微鏡、光学顕微鏡による観察、蛍光X線分析、繊維分析による材質の推定を行った。

伝世資料では、長崎潜伏キリシタン伝来の聖母マリア掛け軸「雪のサンタマリア」について、赤外線・紫外線写真撮影、X線透過撮影による観察、蛍光X線分析による顔料分析、赤外線分光分析による材質分析を行った。また第一次大戦時、収容所においてドイツ人俘虜が出版した印刷物について、蛍光X線分析を用いて顔料分析を行った。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査研究グループ

記録資料分野

大分大学（大分市）	附属図書館所蔵郷土資料の修復
大阪府河内長野市	引き札の修復
舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市）	ユネスコ世界記憶遺産登録資料の保存処理
有限会社おりべ（京都市）	水損書籍のクリーニングおよび修復
文教大学（埼玉県越谷市）	青蓮寺所蔵「中将姫行状聞書」の修復
来迎寺（大阪府松原市）	「山門図」「境内図」の修復
沖縄県文化振興財団（那覇市）	琉球政府デジタルアーカイブに係るコンサルティング業務

文書・絵図類の修復は漉嵌法^{すきばめほう}を中心に進めており、大分大学などの古文書類（和紙資料）27点の修復を実施した。また、河内長野市所蔵の郷土資料の引札等の修復は継続的に実施している。

舞鶴引揚記念館所蔵ユネスコ世界記憶遺産登録資料は、平成28年度の状態調査以降、順次保存処理を継続しており、令和元年度は俘虜用郵便葉書、引揚証明書など62点の保存処理を実施した。

有限会社おりべには図案参照のための貴重書類が多数所蔵されているが、保管場所の雨漏り水損によりカビが生じ、燻蒸処理後の書籍のクリーニングおよび破損箇所の修復を行った。

文教大学からは奈良県宇陀市の青蓮寺に所蔵されている中将姫伝承に係る手稿本の中から研究対象となる「中将姫行状聞書」の修復を依頼され、所蔵寺の同意のもと実施した。

来迎寺では人文科学担当による文化財調査を実施しており、調査中に依頼された「山門図」「境内図」の掛軸4点の修復及び保存箱の作製を行った。

沖縄県公文書館所蔵琉球政府文書は館の主要な公開資料であるが、文化振興財団によるデジタルアーカイブ公開作業を順次進めており、それに伴う解体、修復、再編綴作業を館内で構築するための技術指導等のコンサルティング業務を実施した。

伝世資料分野

石川県能登町	重要有形民俗文化財能登内浦のドブネ保存修復業務
大山寺（鳥取県大山町）	重要文化財「鉄製厨子」の保存修復
岩手県陸前高田市	被災国登録有形民俗文化財等修理業務
和歌山市和歌の浦	不老橋等修復事業
愛知県芸術文化センター	木村定三コレクションに係る保存修復処置およびX線調査委託業務
近畿財務局	真田山旧陸軍墓地内に所在する工作物保全業務

能登町では、平成29年度からドブネと呼ばれる木造漁船の保存修理を行っている。本年度は、ドブネ1の後半作業である強化・形状復元などの作業を、ドブネ2については前半作業であるクリーニング・防錆作業を現地で行った。また、船具類6点については研究所で保存修復作業を行った。

鳥取県大山町に所在する大山寺所蔵の重要文化財「鉄製厨子」の保存修復を行っている。旧修復部分の改善、防錆処理及び負荷のかからない安定した展示を行うための支持台の作製をするため作業を行っているが、修復方針の一部変更により令和2年度11月まで事業が延長されることとなった。

東日本大震災による被災資料陸前高田市立博物館所蔵の国登録漁撈用具及び収蔵資料について、6点の資料の除菌洗浄・脱塩作業・修復し事業を完了した。

愛知県美術館所蔵の木村定三コレクションの中から金属製品4点について保存修復を行い完了した。うち1点は朝鮮半島渡来と考えられる玉や金に金工を施した怪獣帯鉤であり、優品であったが、劣化による形状の破損があった部分を矯正し、可能な限りオリジナル形状に復元する保存修復を完了した。

国指定名勝「和歌の浦」の構成要素で和歌山市指定文化財である石造橋「不老橋」の保存修復事業では石材の部材間の安定化を行い、平成28年度より行ってきた修復事業を完了した。

大阪市天王寺区に所在する真田山旧陸軍墓地は日本最古の陸軍墓地であり西南戦争から日中戦争までの戦死者の墓石が5000基以上あるが、その殆どの墓石が砂岩系の石材を使用し、経年の劣化によりオリジナルの形状を留めないものも数多くある。それらのうち令和元年度では、墓石70基のクリーニング及び石材強化処置を行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

出土木製品分野

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財 ^{かんのんじ} 観音寺・ ^{しきじ} 敷地遺跡出土品の保存修理
兵庫県西宮市	^{たかはたまち} 高畑町遺跡出土品の保存処理
石川県能登町	^{まわき} 真脇遺跡出土品の保存処理
宮崎県えびの市	^{しまうち} 島内地下式横穴墓群第139号墓出土漆製品 (^{くさずり} 草摺)の保存処理
熊本県	^{そぼたかいづか} 曾畑貝塚出土植物性遺物の保存処理

重要文化財の修理としては、福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代）、福山市草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）、徳島県徳島市^{かんのんじ}観音寺・^{しきじ}敷地遺跡（飛鳥～平安時代）の出土品について保存修理や保管台の作製を行った。

他に兵庫県西宮市^{たかはたまち}高畑町遺跡（弥生～室町時代）、石川県能登町^{まわき}真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）の出土品や宮崎県えびの市^{しまうち}島内地下式横穴墓群第139号墓（古墳時代中期末～後期前葉）出土漆製品（草摺）の保存処理を行った。

また、平成3年度から平成6年度にわたり保存処理を行った熊本県宇土市^{そぼたかいづか}曾畑貝塚遺跡（縄文時代前期）出土植物性遺物の再修理を実施した。

出土金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝荒神谷遺跡出土品保存修理
宗像大社（福岡県）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理
福岡県行橋市	重要文化財福岡県稲童古墳群出土品保存修理
兵庫県朝来市	重要文化財茶すり山古墳出土品保存修理
宮崎県えびの市	重要文化財島内地下式横穴墓群出土品保存修理
徳島県	重要文化財徳島県観音寺・敷地遺跡出土品保存修理
茨城県	重要文化財茨城県三昧塚古墳出土品保存修理

国宝の修理としては、島根県出雲市荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の保存修理（第2期：平成29年度から令和2年度まで実施予定）、福岡県宗像市沖ノ島祭祀遺跡（宗像大社所蔵・古墳時代から奈良時代）出土金属製品の保存修理（第2期：平成30年度から令和2年度まで実施予定）を実施した。

重要文化財の修理では、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）、福岡県行橋市・稲童古墳群（古墳時代中期）の出土金属製品について保存修理と保管台の作製を実施した。また、兵庫県朝来市・茶すり山古墳（古墳時代中期）、宮崎県えびの市・島内地下式横穴墓群（古墳時代中期）、徳島県観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安時代）の出土金属製品について保存修理を実施した。

また、茨城県三昧塚古墳（古墳時代中期）の出土金属品の保存修理（令和元年度から令和3年度まで実施予定）を実施している。

土器・3D分野

山形県	重要文化財山形県水木田遺跡出土品保存修理
常陸大宮市	重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品保存修理
奈良県立橿原考古学研究所	重要文化財奈良県メスリ山古墳出土品保存修理
学校法人関西大学	重要美術品長門和同開珎鑄銭司の鑄型の保存修理
茨城県	重要文化財三昧塚古墳出土品の保存修理
京都国立博物館	列品修理「土師器 埴」

国の指定文化財の修理としては、山形県水木田遺跡出土の縄文土器5点の保存修理、茨城県泉坂下遺跡出土の弥生土器5点の保存修理、関西大学所蔵の長門和同開珎鑄銭司の鑄型の保存修理（昨年度から継続）を行った。

昨年度から引き続いて実施していた奈良県メスリ山古墳出土の全高240センチを超える大型有段口縁円筒埴輪の保存修理を終了した。

令和元年度から令和3年度までの継続予定で、茨城県三昧塚古墳（古墳時代中期）の出土埴輪の保存修理を開始した。

他に、兵庫県竜野市西宮山古墳（古墳時代後期）の出土土師器の保存修理を京都国立博物館から受託し実施した。

また当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、昨年度から引き続き国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施した。

他に、正倉院 宝物（墨）の三次元計測事業と沖縄県宜野湾市平和祈念像の2度目の三次元計測及び差分解析事業を実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

展覧会の開催

春季企画展

『元興寺地蔵会行燈絵』名品展 ※宗教法人元興寺と共催

開催期間 4月26日(金)～6月30日(日)

開催場所 元興寺法輪館 入館者数 25,193名

3月16日から6月30日に開催されたJR西日本の「はじまる、つながる、奈良の旅～おおさか東線全線開業記念～」キャンペーンに関連して、奈良の世界文化遺産登録の5社寺（法隆寺、東大寺、興福寺、春日大社、元興寺）がそれぞれ特別企画を設定することとなり、『元興寺地蔵会行燈絵』名品展を開催した。

元興寺地蔵会は昭和23年に復興され、今では数千人の善男善女が訪れる奈良の処暑を代表する行事となった。極楽堂内では各界知名士奉納の行燈絵掲げられるが、これまで寄せられた行燈絵は、戦後の元興寺復興が多くの方々支えによりなされた証であるとともに元興寺の宝ともいえる。

今回はそれらの中から選りすぐりの作品百数十点を法輪館に展示し、より多くの方々に訪れていただき、元興寺のもつ別の一面を知っていただくとともに、「歴史を残す」ことの意義や重要性とその大変さに理解をいただいた。

秋季特別展

『瓦仙人の世界—考古学者 藤澤一夫コレクションから—』 ※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月26日(土)～11月14日(木)

開催場所 元興寺法輪館 入館者数 11,090名

四天王寺国際大学教授で当研究所の嘱託研究員でもあった藤澤一夫氏（1921～2003）が、若き日に各地を歩き回って採集した遺物、なかでも古瓦を中心に展示した。

藤澤氏は戦前、朝鮮総督府で学芸員として勤務し、韓国の重要な遺跡の調査にも携わり、戦後は大阪府教育委員会技師として府下の文化財保護に尽力し、その後四天王寺国際仏教大学にて教鞭をとられた。古瓦研究のパイオニアであり、瓦仙人の名で親しまれた。

収集された資料の中には、韓国扶余の百濟時代寺跡出土品があり、元興寺の前身・飛鳥寺出土瓦に文様が酷似するものも含まれている。その他、大阪府下を中心とした古代寺院の古瓦が多数採集されており、その資料を当研究所総合文化財センターで預かり、整理を進めて展示した。

関連特別講演会・対談

開催日 令和元年10月27日(日)

開催場所 国宝元興寺禅室

参加者数 約100名

特別展のテーマに即して、藤澤一夫氏のご子息、藤澤典彦先生と、古瓦研究者として藤澤コレクションに深い造詣を持つ網伸也先生に講演、対談をいただいた。藤澤先生からは藤澤一夫氏の様々なエピソードを、網先生からはコレクションの学問的な背景をそれぞれお話しいただき、後半は衆を魅了した藤澤一夫氏の輪郭を描く対談が行われた。

特別講演

「歴史考古学の黎明と藤澤一夫」 網伸也(近畿大学教授)

「拾う考古学の時代」 藤澤典彦(研究所評議員・元大阪大谷大学教授)

対談 網伸也 藤澤典彦 進行 角南聡一郎

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「保存科学から歴史を読む」

元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく報告した。

場 所 総合文化財センター ルーパ館3階
時 間 13:30～15:00

第1回	5月 8日(水)	「 ^{りよくゆうとうき} 緑釉陶器の色を測る」	田中由理
第2回	6月12日(水)	「 ^{よろい} 甲とさび」	初村武寛
第3回	7月10日(水)	「 ^{ぞうがん} 『象嵌』ってなに？」	尾崎 誠
第4回	8月 7日(水)	「科学の眼で見る古代日本の櫛」	木沢直子
第5回	9月11日(水)	「 ^{こはく} 琥珀が語る古代の物流」	植田直見
第6回	10月 9日(水)	「東大寺大仏発見の ^{ちんだんぐ} 鎮壇具」	塚本敏夫
第7回	11月13日(水)	「金属製遺物の年代を測る」	山田哲也
第8回	12月11日(水)	「金の馬具と鉄の馬具」	尼子奈美枝

(参加者総数199人)

近鉄文化サロン・2019年度元興寺文化財研究所協力講座

「元興寺の歴史—創建 1300 年事業の成果と研究の新展開」

創建千三百年を迎えた元興寺の歴史と所蔵文化財についての連続講座を開催し、元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所 研究員が解説を行った。

前期

第1回	4月 9日	「法興寺（飛鳥寺）創建」	塚本敏夫
第2回	5月 7日	「法興寺（飛鳥寺）に伝わった仏教 —インドから慧灌・道昭まで—」	三宅徹誠
第3回	6月 11日	「元興寺創建」	村田裕介
第4回	7月 9日	「奈良時代の仏教と元興寺—写経と勘経—」	三宅徹誠
第5回	8月 13日	「古代元興寺の変貌 —古代官立寺院から中世民衆寺院へ—」	坂本 俊
第6回	9月 10日	「浄土信仰の展開と元興寺の智光曼荼羅」	高橋平明

後期

第1回	10月 8日	「元興寺観音堂十一面観音菩薩像の行方」	植村拓哉
第2回	11月 12日	「ならまち再発見！ —中世元興寺の変化とならまちの成立—」	佐藤亜聖
第3回	12月 10日	「元興寺別院」十輪院の軌跡—古代から近世まで—	服部光真
第4回	1月 14日	「元興寺とならまちの民俗学」	角南聡一郎
第5回	2月 11日	「元興寺五重大塔焼失の記録を読む」	服部光真

※当初3月10日に予定されていた植田直見の「日本における保存科学の歩みと元興寺文化財研究所の半世紀」は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、延期となった。

展覧会等の開催支援

令和元年度『発掘された日本列島2019』展（文化庁受託事業）

文化庁（文化資源活用課）と開催各館が主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、展示品の点検・集荷、展示・撤収支援、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年から実施している。

本年度は新発見考古速報展と特集1「福島への復旧・復興と埋蔵文化財」、特集2「記念物100年」の3部で構成された。

新発見考古速報展では、近年の発掘調査成果で全国的に注目を集めた12遺跡から出土した資料約470点が出陳、パネル紹介された。

特集1では、東日本大震災で被災したうちの、福島県浜通り地域の遺跡を取り上げ、現在も復旧作業が続けられている地域の埋蔵文化財や、復旧事業に関連して行われた発掘調査の成果を展示した。

特集2では、日本で記念物を指定する制度（「史蹟名勝天然記念物保存法」大正8年（1919年）に制定）ができて100年を迎えることを機会として、記念物の内容や様々な取り組みを紹介し、代表的な記念物の保護について紹介した。

入館者数についてはのべ196日間の開催で106,222人であった。

令和元年度 開催館、開催期間および入館者数

東京都江戸東京博物館（東京都墨田区）	6月 1日～	7月 21日	83,698人
花巻市博物館（岩手県花巻市）	8月 2日～	9月 10日	3,900人
三内丸山遺跡縄文時遊館（青森県青森市）	9月 21日～	11月 4日	6,347人
名古屋市博物館（愛知県名古屋市）	11月 16日～	12月 28日	8,938人
大野城心のふるさと館	1月 18日～	2月 26日	3,339人

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内環境の管理と、法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告2019』（1,300冊）

（公益財団法人荏原 畠山記念文化財団助成事業）

研究員が科学研究費等による研究活動や仕事を通じて得た新しい所見や発見について報告を行う年報として、公益財団法人荏原 畠山記念文化財団の助成金を受け刊行している。

『瓦仙人の世界—考古学者 藤澤一夫コレクションから—』

秋季特別展の展示を理解していただくために解説書を刊行した。

『平安京左京六条二坊十二町 烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書』

平成30年に発掘調査を行った京都市平安京左京六条二坊十二町烏丸綾小路遺跡の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『藤原京右京十条三・四坊—平成30年度発掘調査報告書—』

平成30年に発掘調査を行った右京十条三・四坊の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『華嚴宗元興寺所蔵歴史資料調査報告書』

令和元年度に実施した華嚴宗元興寺所蔵の古文書・古記録、聖教、位牌、版木、絵画の調査の成果をまとめ、報告書を刊行した。

7. 体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として実施している。

国立民族学博物館「博物館とコミュニティー開発コース」研修員受け入れ

国立民族学博物館が国際協力機構（JICA）から委託を受け実施している博物館学総合研修「博物館とコミュニティー開発コース」のうち、「資料の保存と修復」について担当し、パレスチナ、インドネシア、ザンビアからの研修員3名に対し5日間の研修を行った。

松本大学 チェコ共和国パルドゥビツェ大学研修生受け入れ

松本大学が受け入れて1か月にわたり国内研修を実施したチェコ共和国パルドゥビツェ大学修復学部の研修生2名に対し、2日間の紙資料修復の研修を行った。

博物館実習の受け入れ

奈良大学（13名）、近畿大学（2名）、横浜国立大学（1名）、和歌山大学（1名）、大阪教育大学（1名）、京都女子大学（5名）の計23名を受け入れた。

施設見学会

総合文化財センターの施設見学会を、個人希望者向けに7月10日（水）、8月8日（木）、9月11日（水）、10月10日（木）、11月13日（水）、12月12日（木）、2月13日（木）の計7回実施し、実際の保存修復作業現場や分析機器等について見学いただいた。（総参加者は63名）

その他、奈良女子大学、大谷大学、京都橘大学、龍谷大学、関西大学博物館実習、皇學館大学、金沢学院大学、東京藝術大学大学院、東北大学文学研究科、東北芸術工科大学、奈良市三笠校区小中学校教員研修、日本油化学会、JICA、野口神社、吹田市商工会議所、宮水学園（西宮市生涯学習プログラム）研修、NPO法人シニア自然大学校シニアCITYカレッジ（大阪市）、NPO法人文化創造アルカ（奈良市）関西史蹟愛好会、の計19団体（327人）の見学を受け入れた。